30

京都大学整形外科学講座初代教授 松岡道治先生の生涯

廣谷速人
島根医科大学名誉教授

昨年の本学会で報告したように、松岡道治先生は明治三九年六月一八日、京都帝国大学京都医科大学において、わが国で初めての整形外科の診療と講義を開始し、本邦整形外科学の基礎を築いた。今回は先生の生涯について述べる。

【生家、生地】松岡先生は、山口県室積浦で三百年続く回船問屋（今津屋）松岡五郎左衛門の次男松岡藤蔵（酒造業）を父に、徳山の国広治郎左衛門（酒造業、士族）の三女トモを母に、その次男として、明治四年一一月二一日に出生した。

出生地は、山口県熊毛郡室積町大字室積浦（現・光市室積町七丁目）第百四十番屋敷（郷土史家・国廣哲也氏の教示による）である。

【家系】松岡家一族は政治家、学者を多く輩出している。伯父（松岡五郎左衛門長男、三十郎）の四男（嫡男）、すなわち先生の従弟が松岡洋右・元外務大臣であり、三十郎の次女（洋右の姉）、藤枝の娘寛子の夫が元・総理大臣の佐藤栄作である。

先生の兄、松岡章一の長男は松岡操一・大阪歯科大学名誉教授（局部床義歯学）である。

松岡先生の末妹イトの夫、木原岩太郎（明治二六年、帝国大学卒業）は、京都医科大学耳鼻咽喉科学講座教授予定者として、明治三三年ドイツへ留学したが、ベルリン到着後一週間にして客死した。遺子のひとり（次女）八重の婿となったのが木原卓三郎先生（大正六年、京都帝国大学医科大学卒）である。

木原先生は昭和二年に京都大学教授（解剖学）に就任、昭和三〇年退官、名誉教授。昭和三三年に学士院賞を受賞した。木原先生のご子息が木原隆・大阪医科大学名誉教授（解剖学）である。

【学歴】松岡先生は地元の小学校（監海小学校）から岩国中学校尋常科を経て、第三高等中学校予科を明治

二三年に、第一高等中学校を明治二六年に卒業した。帝国大学医科大学の卒業は明治三〇年一二月である。

【教授時代】京都帝国大学在任中、松岡先生は東京帝国大学の田代義徳教授と並び称され、日本外科学会などで活躍された。先生の研究の整備ぶりは、国内外の訪問者から等しく絶賛されたところである。

京都医科大学での講義はドイツ語で行われたことは有名であるが、その準備には非常に熱心であったといわれている。

【開業時代】松岡先生は大正四年、本邦初の整形外科専門病院（松岡矯正科及外科病院）を大阪市に開業した。当時珍しい洋風の建物で、門前市をなす盛業であったといわれている。

先生没後の病院は、存命中から赴任していた内藤一男先生（昭和一四年、京都帝国大学医学部卒業）が院長となって運営されたが、昭和四七年に閉院を余儀なくされた。

【晩年】松岡先生は、若い頃無口であったそうであるが、晩年は好々爺になられて、内藤先生も一度も叱られたことはないと書いている。また、親戚の子供さんが自宅に訪ねてくると、笑顔で菓子などを与えておられたという。

先生は昭和二八年に八五歳で死去された。先生ご夫妻に遺子はなく、松岡洋介の三男（松岡震三）を養子にされた。

膨大な蔵書は京大整形外科へ寄付され、その目録は、日本医史学学会理事長、蒲原宏先生によって、整理されつつある。

先生ご夫妻の墓は山口県光市光井の真宗松尾山光立寺にあることを、上記国廣氏の案内で知ることができた。松岡家代々の墓と松岡洋右の墓との間に建立されていて、そばに夭折された愛娘（俗名富士子様［行年一歳半］）の地蔵がある。戒名は先生が「和敬院釈信道居士」、奥様（綱子）が「静寂院釈清月大姉」である。